

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号 52

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
----------	--

2 評価する領域・分野	<p><b>教育課程・学習指導・広報・情報化推進</b></p>
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>① 学習実態調査と授業評価アンケートの結果から、生徒は授業を積極的に受けられている。一方で、家庭学習が十分に行えていない生徒が多いため、教員が提示する課題の量と質の改善と、生徒が自主的な学習を計画的に行えるような働きかけが必要である。</p> <p>② 昨年度の学校評価アンケート結果から、「授業や家庭学習への指導・支援をとおして一人一人の能力に応じた指導を行っている。」について、保護者の評価が低いため改善する必要がある。</p>
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>① 学力を高めるために、家庭学習時間の増加と課題の精選、自主学習の推進を図る。</p> <p>② 新学習指導要領による新カリキュラムの編成と観点別学習状況評価（以下、観点別評価と記す。）の評価方法を確定する。</p> <p>③ 保護者・中学生への広報活動を積極的に行う。</p> <p>④ 生徒用タブレットや新たに導入されたシステムを効果的に運用する。</p>
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>① 学習指導委員会と学年会・教科会と連携し、様々な角度から生徒へアプローチする。</p> <p>② カリキュラム委員会において、教科会で話し合った内容を共有し合う。</p> <p>③ 教務部が中心となり、全職員の協力のもと行っていく。</p> <p>④ 情報化推進担当を中心に、タブレット・メタモジ・百問繚乱の積極的な活用を図る。</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>① 教務部から家庭学習の必要性や目標値、家庭学習の仕方を発信するとともに、教科担任やホームルーム担任からも積極的に働きかける。</p> <p>② 新カリキュラムと観点別評価に関して、教科会で活発な議論をするとともに、他校や文科省からの情報を基に本校に合ったものを作成する。</p> <p>③ 「中津高だより」を積極的に発行し、すぐメールで連絡したりメタモジで送信したりすることで、保護者や在校生に本校の活動をこまめに伝える。また、ホームページに掲載することで中学生や地元の方々にも知ってもらう。</p> <p>④ タブレットを使用した授業や新しく導入されたシステムの効果的な運用を研究・実践し教員間で交流する場を設ける。</p>	<p>① 学習実態調査・授業評価アンケートの結果とクラス独自の家庭学習時間調査の結果によって評価する。</p> <p>② 教科ごとに観点別評価の基準を作成し、それを基に、今年度の生徒のデータで評価を仮に付け、妥当であるか検証する。</p> <p>③ 学校評価アンケートの結果や中学生の志願動向で評価する。</p> <p>④ 運用状況と授業評価アンケートや感想によって評価する。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価

<p>① 前期の調査結果を生かして、後期に生徒への働きかけを強化した。</p> <p>② 新カリキュラムは、様々な議論の末に完成した。観点別評価は、評価方法を考えそれを基に付けた成績が妥当であるかを教科会で判断し、概ね完成に至った。</p> <p>③ 中津高だよりの内容や写真を充実させ、多くの行事や取り組みを紹介した。</p> <p>④ 今年度もオンライン授業を行うこととなったが、早くからできる限り多くの授業を実施した。メタモジの活用は教科によってはできていない。百問繚乱は活用する教員が増えてきている。</p>	<p>① 学習実態調査、授業評価アンケート</p> <p>② 今年度のデータで検証</p> <p>③ 学校評価アンケート</p> <p>④ 生徒・保護者・教員へのアンケート</p>	<p>A B <b>C</b> D</p> <p><b>A</b> B C D</p> <p><b>A</b> B C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>○ 授業を積極的に受ける生徒は非常に多かった。(授業評価アンケート)</p> <p>○ 新カリキュラムと観点別評価の研究・検証をすべての教科が行うことで、来年度に向けた準備が整った。県内の多くの高校と比較しても、充実した準備ができています。</p> <p>○ 「中津高だより」の発行数も増やし、内容や写真を充実させたことで、多くの生徒や保護者に読んでもらい本校の様子を広く知ってもらえた。(学校評価アンケート)</p> <p>○ 夏休み後の県下一斉オンライン授業は、いち早く多くの授業を開講し、すべての教科において学びを止めないように積極的に行うことができた。(生徒・保護者アンケート)</p> <p>● 家庭学習時間は増加せず、本校の目標時間には達していないので、来年度も継続して働きかけていく必要がある。また、課題の量の増加や提示の仕方の工夫、生徒への働きかけを強化する必要がある。(学習実態調査)</p> <p>● 教科によっては活用が難しいが、来年度も継続してメタモジの活用を図っていくとともに、教員間で共有する取り組みを行う必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>① 家庭学習時間の目標である「中津高スタンダード」の実現に向けて学校全体で取り組んでいく。</p> <p>② 新カリキュラムと観点別評価の円滑な運用を図る。</p> <p>③ 引き続きタブレット・メタモジ・百問繚乱の活用を図るとともに、Manabaの運用も行っていく。</p> <p>④ 中津高だよりだけでなく、ホームページを充実させるとともに、体験入学やオープンキャンパスをより良いものにし、中学校への広報に力を入れることで中津高校の魅力を伝えていく。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

### 【意見・要望・評価等】

- ・新カリキュラムと観点別評価を概ね完成させたこと、「中津高だより」の内容の充実等を高く評価されている。次年度に向けての改善方策案にあるとおり取組を進めてほしい。
- ・生徒の活躍が、よく伝わってきた。教職員の生徒たちへの愛情を強く感じた。
- ・ホームページは見やすくよい。
- ・家庭学習、自主学習について十分ではないといった意見があるようだが、オンライン授業が増える中、生徒間で学習をやるかやらないかの差が出ていると思われる。だが、教職員は生徒たちへの課題や質・量をよく検討され、粘り強く働きかけられている。生徒一人一人の個性や学力に対し、柔軟に指導されていると思われます。教職員の奮闘が保護者に十分に伝わっていないのではないかと。
- ・中津高だより等、情報発信は適宜行われているが、まだ少ない。
- ・家庭学習時間に縛られず、学習目標に対して何が自分に不足しているか、生徒と教員とのコミュニケーションの中で明確になるものであり、丁寧な意識付けと対策が必要である。
- ・情報発信は大切なことではあるが、発信だけでなく誰がどれだけ、どのような方法で受け取ったかを把握し対処することが大事である。

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号 52

## I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3) 「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 生徒のアンケートでは「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」の結果で、「あてはまる・まああてはまる」が95%で昨年より1%下がる結果となった。生徒にはモラルやマナーの大切さが理解されてきている傾向である。また、保護者アンケートでは「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」について「よくあてはまる・ややあてはまる」の合計が76%となっていて、生徒のアンケート結果の95%と比べるとの認識に開きがあったが、昨年より縮まった。</p> <p>② 保護者に対しての「選択授業や少人数授業又はオンライン授業を行い、生徒の理解を高めようと努めている」で88%と回答している。今年度のコロナウィルス感染症に対する学校の対応については大まかに理解されていた。</p> <p>③ 「学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導を行っている」については、85%の保護者からは評価されて昨年より3%上がった。身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣について、保護者からは関心の大きい評価対象なので、今後生徒自らが自分自身を律する「自律」が徹底されるような支援をしていきたい。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 学習・部活動・学校行事・その他の特別活動にしっかり参加し、<b>優先順位を付けて</b>行動できるようにさせる。自主・自立を促す。</p> <p>② 校内での身だしなみは落ち着いてきたので、今後もこれが継続するよう、身だしなみ指導・登校指導は継続して実施する。また、校外についても気を配るよう努める。</p> <p>③ 地域との連携・関係を昨年度以上に築き上げていく。そのためにもCCC活動の活用や地域に広がる自主的な生徒会活動・委員会活動を展開する。また、特別支援学校との交流も検討したい。</p> <p>④ 本年度も生活委員会が作成した「スマホ断キャンペーン」を実施した。生活委員会・生徒会を中心に啓蒙活動を活発にさせたい。危険な歩きスマホを自重するように指導していきたい。</p> <p>⑤ 問題行動、いじめ、不審者等様々なトラブルに関する事象の未然防止に努める。</p> <p>⑥ 全職員が共通の課題を認識し(共通認識)、あらゆる場面で助け合いながら(協同体制)、指導・支援する。</p> <p>⑦ 問題を抱える生徒や保護者への初期対応を迅速に行う。<b>早期の家庭訪問を躊躇しない。</b></p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会や各分掌との連携の強化</p> <p>② 全職員が共通認識し、協同体制で指導・支援できる体制強化</p>
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>

① 自主性を重んじた活動や各種委員会の活性化につながる活動支援（CCC活動はコロナ禍で縮小） ② 学年と連携した身だしなみ指導 ③ 教育相談の充実	① 諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察 ② 外部アンケートによる実態把握 ③ 迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① コロナウィルス感染症対策で学校祭ができなかったが、来年度に向けての検討や今できることは何かという観点で委員会活動が活発化した。 ② MSリーダーズによる啓発活動 ③ SCによるカウンセリングと事後指導	① 参加状況、活動後の生徒の様子 ② 参加状況、活動後の生徒の様子 ③ アンケート結果、態度 ④ 未然防止、問題解決	A B <b>C</b> D A B <b>C</b> D A <b>B</b> C D A <b>B</b> C D
11 成果課題	<p>○生徒会執行部が今年度の状況下でできることを自主的に模索しながら活動できた。前期生徒会は旭陵祭の実施及び学校紹介等の動画作成や後期生徒会の次年度の学校祭の方向性の模索や中学生への学校紹介の活動などがあった。</p> <p>○CCC活動は、昨年度コロナウィルス感染症対策で何もできなかったが、今年度は夏休みと12月の感染者が収束している時期に実施できた。積極的に参加してくれる生徒が多数いて評価できるものであった。来年度もコロナウィルス感染対策状況下での活動となるが、積極的に生徒に提供していきたい。</p> <p>○生徒がより主体的に委員会活動などの特別活動に関わることができるようになりつつある。具体的には、生活委員会が授業での挨拶のさらなる向上を呼びかけた。</p> <p>○生活委員会が、「スマホの使用」について昨年より大きく啓発活動を実施した。各定期考査期間が始まる時期に、各教室で「スマ断」の呼びかけを実施したり、全校放送を用いて「歩きスマホ」の危険性を訴えた。</p> <p>○美術部が「交通安全」、コンピューター部が「あったかい言葉がけ」の東濃地区のポスター作製に協力した。</p> <p>●身だしなみは落ち着いてきてはいるが、女子生徒の中には気になる生徒もいる。一人一人が中津高校の生徒としての誇りを持った立ち居振る舞いがどこまでできるかが今後の大きな課題の一つである。</p> <p>●SNSを含めた携帯（スマホ）使用に関するマナーについては事あるごとに指導していきたい。</p> <p>●勉強と部活動の両立は言うまでもないが、3年間のうちに何か一つ自分の視野を広げるために学校外の活動に参加するような意識づけをしているが、一部の生徒への広がりを感じるが全体へ浸透は感じられない。自分の可能性を広げることは将来の可能性へとつながるので、全体へ広がる方法を模索していきたい。</p>	総合評価 A <b>B</b> C D
12 来年度に向けての改善方策案		
① 生徒がより積極的に様々なことを企画立案できる環境を作り、リーダーの育成という観点を重点課題として委員会活動の活発化を引き続き充実させる。 ② 生徒がより積極的に様々な企画に参加し、自己有用感・自己肯定感を感じることができる特別活動を実施することを継続する。 ③ SNS等携帯（スマホ）の有効な使用方法を生徒たちに考えさせる。 ④ 生徒が中津高校に対して充実感がある生活をさせる。 ⑤ 特別支援教育と教育相談を上手に峻別し、様々な生徒に対応するための教育相談体制をより充実させるよう検討し、教員研修を実施する。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

### 【意見・要望・評価等】

- ・コロナ禍により思うような活動ができず評価は低くなっているが、アフターコロナを意識し、生徒が意欲を持って取り組める環境づくりを進めてほしい。
- ・職員の日頃からの情報共有により、生徒に対して良好な支援につながられているようである。ぜひ今後も多様な生徒への支援体制を維持、強化されたい。
- ・多くの生徒は気持ちのよい挨拶ができていると評価されている。挨拶をすることについて、生徒たちが考え、ごく自然な自主的な行動になるとよい。
- ・コロナ禍における様々な活動に対し、どうすれば感染対策を取りながら実施出来るのか、生徒会を中心に相当考えたと思う。新しいカタチの旭陵祭が開催されたことに感激した。
- ・キャリア教育や自己を正しく理解する力を養うには、多くの人とのコミュニケーションが必要と

考えられるので、外部の方々の力を多く活用してほしい。  
 ・成年年齢引き下げに伴い、修学中に成年に達する生徒へ成年としての社会での役割、責任、法律等の教育を充実させてほしい。

## 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号

52

### I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。                  (4) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。                  (5) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。                  (6) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路支援</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 「本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」(生徒の高評価 90% (前年度より-3%)、分からない6% (前年度より+2%) …概ね高い評価を得ている。引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。                  ② 「本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」(生徒の高評価 91% (前年度より-1%)、分からない7% (前年度より+2%) …概ね高い評価を得ている。引き続き、生徒一人一人に対するより具体的な指導を進めていきたい。                  ③ 「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」(保護者の高評価 94% (前年度と同じ)、分からない3% (前年度より-1%) …年7回の「保護者のための進路サポート勉強会」をオンラインで実施しており、保護者の参加数も多く、昨年度と同様高い評価を得ている。引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。                  ④ 「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」(保護者の高評価 90% (前年度より+7%)、分からない5% (前年度より-8%) …昨年度よりも高い評価を得ている。生徒一人一人に対する適切な指導を真摯な姿勢で引き続き進めていきたい。                  ⑤ すぐメールやオンラインの活用で、保護者の「分からない」という回答の割合が減少した。昨年度の課題が少しくリアできたと考えたい。                  進路希望の多様化、推薦入試の拡大、私立大学入試の複雑化など、進路に関わる諸課題に対して、生徒や保護者の立場に立った的確で丁寧な進路支援を引き続き行っていきたい。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう、助言や援助に努める                  ② 個々の生徒の特性等を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに、適切な情報を提供し、計画的な進路(人生)設計の補助に努める。</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会、教科会、教務部との連携と進路研修会の充実                  ② 進路支援部を中心とした学習効果や学力の分析                  ③ 前年度3年学年会からの引き継ぎの充実と資料の活用</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 進路指導及びキャリア教育において進路支援部が率先して進め、次年度に引き継がれる体制作り ② 進路プログラムの充実 ③ 効果的な補習、模試の計画と実践、評価 ④ 進学情報の分析と提供 ⑤ 進路判定会議の充実	① 各種事業実施後のアンケート集約や反省の分析、活用方法 ② 生徒の進路結果やその満足度 ③ 教員側からみた一人一人の生徒の進路結果の分析 ④ 学年会や他の分掌からの意見 ⑤ 進路結果と判定会議の検証・分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 1年生秋季研修、1年生合同企業説明会、弁論大会 2年生出前講座、各種進路講話、弁論大会 ② 土曜補習、夏期集中補習、共通テスト演習 ③ 大学判定会議、就職支援、羅針盤発行、インターンシップ、ふるさと・SDGs 学習 ④ 保護者を対象とした進路サポート勉強会 ⑤ 進学指導重点校事業（外部講師による特別補習）	① 教師・生徒の反省等 ② 模試成績の判定等 ③ 進路情報の活用等 ④ 保護者との連携 ⑤ 生徒の感想等	(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
10 成果課題	<p>○コロナ禍で各種進路行事の開催も危ぶまれたが、オンラインや密にならない工夫をとることで、多くの行事を中止することなく、生徒に取り組ませることができた。</p> <p>○昨年度からスタディサプリ（リクルート社）を全校で導入しており、各生徒の自宅学習の充実に取り組んでいる。ただ使用率は全体の半分程度であり、もっと積極的に使用できるよう働きかけをしていきたい。</p> <p>○生徒の自己実現に向けてのサポートに全校体制で取り組んでいる。放課後や休日の補習、面接や小論文の個別指導などは全ての教員が協力体制にあり、実績も上がっている。推薦入試が拡大しており、更なる対応が必要であり、また課題でもある。</p> <p>自己実現に向けた生徒自身の校外活動も増えており、積極的な姿勢がうかがえる。</p> <p>○1・2年生の総合的な探究の時間における取組が充実している。</p> <p>1年生の秋季研修では、事前学習で大学教授に来ていただいたり、当日実習で大学等を訪問したりするなど充実した取り組みができた。また、その学習の過程で考えたことが、後半の弁論大会のテーマへとつながっている。2年生では、出前講座と SDGs 講演会等で各自の進路に対する意識を高め、探究発表会へとつなげることができた。</p> <p>○進学希望者だけでなく、就職希望者へのサポートもできた（公務員1名）。</p> <p>●動画配信などを利用した、より個に応じた学習の方法に取り組んだが、使用者は約半数と課題を残した。自主学习への取り組みせ方、学力上位者と下位者への補習の組み方、拡大する推薦入試希望者への指導（教員への負担）が課題である。</p>	総合評価 A (B) C D
11 来年度に向けての改善方策案	① 共通テストを見据えて、各教科における授業や課題の見直し、他教科との交流、模試のやり直し指導などを通して、生徒により力をつけさせるにはどうしたらよいか研究する。 ② より効果的な補習システムや模試の活用を研究する。…「スタディサプリ」等の更なる活用。 ③ 推薦入試への指導に対する効果的で無理のない校内体制の構築。 ④ 総合的な探究の時間における探究活動やふるさと・SDGs 学習の更なる充実。 ⑤ 保護者との連携を更に深め、生徒・教員・保護者が一体となった進路実現への支援。 ⑥ 地元地域と連携し、地元の課題を考え、将来的に地元に貢献できる人材の育成。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月31日

### 【意見・要望・評価等】

- ・総合的な探究の時間の取組は、地域とのつながりにも発展しており、地域としても大変感謝している。ぜひ今後も生徒がふるさとを知り、愛着を持ち、地域の方とつながる取組となるよう学習を充実させてほしい。
- ・本校は生徒の進路支援はもちろん、中学校との連携も大切にしている。
- ・「保護者のための進路サポート勉強会」を、今後も実施してほしい。職業観を育む活動については、企業説明会への参加も計画され（感染対策により実現せず）、また先輩社会人を招いた講話等が複数回開催され、進学先選択やその後を考えることのできる活動が増えた。希望の進路を一緒になって探し支えてくれる教職員が多く、生徒たちは安心している。
- ・中津川市には、多くの企業があり実践的ビジネス探究への取組も提案したい。